

第36回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

＜ ターゲット型 子育てサークルのみなさまと ＞ 議事概要

と き	令和4年8月26日(金) 午後3時から午後4時30分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 3階 学習室5
出 席 者	参加者 12人、市長ほか関係者 11人 計23人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長のあいさつ

テーマはフリーである。子育てサークルのことについて提案やご意見をいただいても良いし、就学前の状況や小学校へ上がってからの心配事等、自由に気になることへのご意見をいただきたいと考えている。

3 各団体代表者自己紹介

- やんちゃんこ 様

阪急塚口駅前前で活動しており、昨年で30周年を迎えた。就学前の子供を対象に、認可外保育園の実施や、だれでも参加可能な体操の場を作るなど、保護者のニーズに合わせて活動している。現在、共働きの家庭の増加や、3年保育に通う子供の増加などで、地域に小さな子供が少なくなっているが、地域にいる子供たちに何かしたいという思いで活動している。

- 成徳幼児クラブ 様

旧成徳幼稚園ミニ図書館の一室を借り、2、3歳児14組で週3回午前中に活動している。年々子供の人数が少なくなっていることが悩みである。

- ぐるんぱクラブ 様

もともと成徳幼児クラブで保育士をしていたが、現在は当クラブの代表として活動している。幼児クラブは、市立幼稚園に通うまでの子供を見るために創立された。当サークルは、成徳幼児クラブに通うまでの1~3歳までの子供を対象としている。今年は現在で8名ほどの子供が通っているが、年々子供の数が減っている。子育てサークルは保護者の心のケアにもなっているため、子育てサークルが続いていくためにはどうしたら良いかと考えている。

- 小園幼児教室ひよこくらぶ 様

小園幼稚園の一室を借りて保育士1名と活動している。コロナ前までは水木と週2回活動していたが、現在はコロナの影響により週1回の活動となっている。

3年保育を行う私立幼稚園に通う子供が増えたこともあり、サークルに通う子供が減っていることが悩みである。

- ひよこ学級 様

出屋敷の竹谷幼稚園を借りて活動している。保護者が主体で運営しており、1名の保育士と週に1回、2時間子供が安全に思いっきり遊べるよう活動している。自身の子供を保育園に入れることも検討したが、近くで子供の成長をみたいと考え、子育てサークルに通わせて集団生活を学ばせている。

今後は市立幼稚園に通わせたいと考えており、子育てサークルの活動を行っている。

- つかぐち kids 様

塚口幼稚園で週 1 回、木曜日に活動している。主に塚口幼稚園に来年から入る 3、4 歳の子供が多いが、違う私立幼稚園に行く 2~4 歳の子供も通っている。塚口幼稚園の一室を借りて活動しているため、幼稚園の年中年長の子供と交流できることが良いところであると感じている。

- 立花幼児学級 様

立花幼稚園の一室を借りて活動している。2 年前までは午後 1 時から 3 時まで活動していたが、保護者から兄弟が幼稚園等に通っている午前中に活動してほしいと要望があり、現在は午前中に活動している。さらに、今年度からは幼稚園から固定の一室を借りて活動している。

昨年度は 6 名、今年度は 10 名程度で活動している。子供が減っていることが悩みである。

- チェリッシュ 様

ダウン症の子供やその保護者が集まるサークルとして、すこやかプラザで第 3 金曜の午前 10 時から正午まで活動している。他にも毎月 1 回子育てひろばや、保護者向けの算数の教え方講座等も実施している。子供に障害のある保護者は、地域の集まりにも足を向けることができないことがあるので、その時期を一緒に過ごせる場として活動している。運営を手伝ってもらって保護者をどのように巻き込んでいくかを悩んでいる。

- 幼児クラブたんぽぽ 様

本サークルは、廃園された上坂部幼稚園で地域の方が作られたサークルであり、現在は週 3 回 16 名の子供で活動している。

コロナ禍においては、子供が 2 名となり運営ができないほどの状況となったことから、子育てサークルを閉めようかと考えたが、元調理師の協力もあり、子育てサークルでは珍しい給食を提供することにすることで、子供の人数が増えた。

給食については、保護者から子供たちに偏食が多く、特にコロナ禍では集団で食べる機会もなくその機会を作してほしいとの要望があり、地域の方の協力もあり実施できている。1~4 歳の子供がいるため、切り方や処理の仕方を年齢ごとに変えて提供している。

子育てサークルを卒業されたあとも保護者同士がつながっていることが非常にうれしく感じている。今後もこのようなつながりを継続していけるよう活動を行っていきたい。

- わんぱく和北クラブ 様

自身は 4 年目で、園田和北幼稚園で週 2 回活動している。周りの保護者達は、子供たちに集団生活を送らせたいと考えているが、市立幼稚園は 2 年保育しかなく私立幼稚園に入園させる方もいる。一方で、市立幼稚園に行きたい保護者は 3 歳児の 1 年をどうするか悩んでいることが多く、自身の経験もあり子育てサークルを立ち上げ活動し始めた。ぜひ、市立幼稚園も 3 年保育を実施してほしいと考えている。

4 市長との対話

〈市長〉

子育てサークルが、市立幼稚園と深い関係があったことを教えていただいた。1期目の市立幼稚園を18園から9園に統合する取組の中で、多くの皆様が市立幼稚園を愛してくださっていることを実感した。当時は、保育料が安い等の複合的な要因もあったが、現在の市立と私立の条件がさほど変わらない中で、市立幼稚園の教育方針を良いと感じ応援してくださる方が多いことをうれしく感じている。

市立幼稚園で3年保育の要望に応えたい思いもあるが、幼稚園教諭数の確保の問題や、少子化が進み共働き世帯の増加する状況下であり、これからは保育士と幼稚園教諭の両方の資格を持った方を採用し、就学前の保育・教育を一体的に進めていくことが求められている。そのうえで、様々なライフスタイルによって就学前の保育について選択ができるよう進めていきたいと考えている。

また、市立幼稚園としては、幼稚園のニーズの調整弁としての機能を果たす必要もある。共働き世帯が増え、保育園のニーズが高まり、私立幼稚園も子供数が減っている。市内においても子供の数はピークアウトしたと考えており、全体の子供が減り、保育園ニーズが高まっている状況下では、私立幼稚園の経営も厳しくなると予想される。私立幼稚園も経営努力として認定こども園となり、保育機能を据える施設も増え、新たな保育ニーズに応えようとしている状況もあるが、保育ニーズの調整弁として市立幼稚園の果たすべき役割もある。さらに、市立幼稚園の役割として発達の問題などを専門的にサポートする機能もある。その整備に向け「いくしあ」での分析を進めているところである。

〈市長〉

市立幼稚園で3年保育ができると、2歳まではサークルで支えることができるとの認識でよいか。

〈子育てサークル 様〉

当サークルは、発足時から小園幼稚園に通う子供に向け、慣らし保育もかねて活動しており、現在も3、4歳を対象に活動している。一方で、現在は1、2歳で子育てサークルに入りたいという保護者が増えてきている。市立幼稚園が3年保育となると、ニーズのある1、2歳の受け入れも行えるのではと考えている。

〈子育てサークル 様〉

子供を幼稚園に慣らす役割も期待されているため、市立幼稚園の場所を貸していただき、連携することも増えている。

〈市長〉

子育てサークルには、幼稚園や保育園に入るまでの子供を様々な形で支えていただいている。今後は、子供の発達が気になる保護者が増える可能性があり、専門のアドバイザーなどと深くつながり、専門性を高めていく子育てサークルも出来るのではないかと感じた。一方で、現状の子育てサークルの要綱の規定についてはいかがか。厳しすぎることはないか。

〈子育てサークル 様〉

助成金をもらっている以上、参加人数も最低 10 名程度で資格を持った指導者が必要ではないかと感じている。

〈市長〉

やんちゃんさんは、子供の発達が気になる保護者のニーズに応えるため虹色カフェを開催したり、障害について学ぶ場を作られたり、ニーズに合わせた取組みを行われている。歴史がありスタッフ体制もある子育てサークルは、自然とそういった機能を担われていることが多い。

市立幼稚園の役割として、インクルーシブ教育などの専門性を発揮する側面もある。子育てサークルも発達が気になる子供の支援等、専門性が求められることも増えてくると考えている。市立幼稚園との更なる連携を進めていきたい。

〈子育てサークル 様〉

子育てサークルもニーズに合わせて変わっていく必要性を感じている。市立幼稚園が減っている中、子育てサークルも集約し専門性を高め、子供の年齢に応じて地域で見守るなどすみわけを考えることも必要になるかもしれない。

〈市長〉

9つの市立幼稚園内に子育てサークルがない市立幼稚園はどれほどあるのか。

〈子育てサークル 様〉

園田幼稚園には子育てサークルがないが、幼児クラブたんぼぼがその役割を担っている。しかし、市立保育園に入園できる 4 歳まで待てない保護者が多いため、私立幼稚園に入園させる方が多い。

〈市長〉

ニーズに応じた専門性と特色のある「子育てグループ」に再編されていくとよいのではないかと感じた。

〈子育てサークル 様〉

子育てサークルをかけもちで通うことができないと聞いたことがある。

〈子育てサークル 様〉

保護者の居場所づくりの側面もあるので、そのような制限はない。

〈子育てサークル 様〉

当サークルに発達が気になる子供がいる。自身も保育士と幼稚園教諭の免許を持っているが、発達に係る専門性が足りないと感じており、保護者へ幼稚園教諭や特別発達支援員に相談を促しているが保護者の受容が難しくなかなか上手くいかない。そういった専門的な部分で、市立幼稚園と連携できれば心強いと感じている。

〈市長〉

確かに、障害を持った子供を保護者が受け止めるのは難しく、小学校入学以降、教諭とのコミュニケーションに課題が残るケースがある。いくしあでは、小児科の先生が在籍しているので、必要に応じて診療を受けることもできる。子供は年齢に応じて個性が出てくるものなので、発達が気になる子供も一緒に地域で育み、個性に応じた対応を行えるようなインクルーシブな子育て環境を作っていきたいと考えている。

〈子育てサークル 様〉

市立幼稚園の「特別な支援を要する子供」5名の定員を超え入園できず、私立幼稚園にも入園を断られた4歳の男の子がいる。どこの幼稚園にも通えていない状況であり、現在当サークルに通っている。

〈子育てサークル 様〉

発達に問題を抱えた子供を受け入れるあこや学園は定員がいっぱいで入園が難しい。

〈子育てサークル 様〉

理想は幼稚園の年中まではあこや学園等で集団生活を学び、年長になれば次の小学校の生活を見据え地域の保育園に行ける仕組みがあればと考えている。

〈子育てサークル 様〉

「特別な支援を要する子供」については5名の定員があり、昨年度、塚口幼稚園では抽選となったと聞いている。幼稚園は園区がないため、園田と武庫地域にお住まいの方が、塚口幼稚園を希望され、塚口幼稚園は定員を上回り抽選となったようである。住んでいる地域の小学校に入学するので、同じ地域で幼稚園から小学校へ上がれるようになるとよいと思う。

〈市長〉

市立幼稚園の「特別な支援を要する子供」5名の定員の問題は認識している。また、就学前から就学へのつながりが弱いことも課題となっており、現在、その原因を市で調査している。今後、よりよい尼崎方式を検討していく。

以 上